

1 月度個人 山 行 報 告 書		報告者	長島	参加 メンバー	CL: 金子さん SL: 村越さん 藤田さん、長島
		報告日	07.02.14		
山 域	大日岳	山行日	07 年 1 月 27 日		
山 名	高鷲スノーパーク				

山行目的	山スキー、スノーボード	コースタイム (天候: 天気図記号) 雪のち晴
------	-------------	-------------------------

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会
担当者

ルート図 (地図を見て正確に)

1 月 27 日
07:00 起床
07:30 神社発(前谷)
08:00 高鷲スノーパーク着
09:00 駐車場発
09:45 ゴンドラ終着点より取り付き
10:45 大日岳登頂
11:45 ゴンドラ終着点戻
12:00 休憩、午後リ-

山行報告 7時半に前谷の神社を出た頃は雨だったが、高鷲スノーパークにつく頃には雪になっていた。空模様は牡丹雪がチラつく曇り空。車の中で軽く朝食を済ませ移動。1日券を購入し高鷲スノーパークのゴンドラ終着点までいく。山スキー、ワカンをそれぞれ装着し、取りつきを探す。藤田さん、金子さんは高鷲スノーパーク側からの取りつきは初めてとのことだったが、進み始めて程なく赤布が現れる。皆さん山スキーで、ワカンは私のみ。しかもワカン2回目です慣れない足取りで息を切らしながら着いていく。昨夜からの積雪によるパウダースノーは、白く美しかったが私だけは汗だく。山スキーはワカンの私など比べものにならない程早い。歩行中も雪は降りしきり、足場はパウダーで、山は美しさを増していった。スノボに来てラッセルするとは思っていなかったが、この登りとパウダーでは当然の状況となる。そんな思いを知ってか知らずか山スキーの先輩方は軽快である。すぐに引き離される。その度に先行の山スキーを呼び止める。途中、スノーシューを付けたスノーボーダーに出会う。後ろについて歩いて見ていると、スノーシューの仕組みが何となくわかった。歩きやすそうだ。スピードもワカンの私よりずっと早い事が伺えた。しばらくして大日岳頂上にでた。雪と風で視界は5m程。軽く休んだ後、出発。他スキーヤー、スノーボーダーは左へ行っていて私たちは右手(来た道)を取る。来た時同様、登り下りが続く。スノボは下りしか進めない。どんな緩やかな登りでも、どんな短い登りでもスノボは板を外し歩かなくては行けないので、

その脱着に非常に時間をロスした。また慣れないパウダーに埋まり出れなくなり引っ張り出してもらったりしながら、なんとかゴンドラのある所まで戻った。言うまでもなく、私ひとりだけ疲労困憊全身雪だらけになっていたのはご想像にお任せします。

フリースペース

(大日岳山頂にて)

確認
(リーダー)
金子
07.02.09

<感想> 山スキーとは山登りの延長であり、またスキーとスノボの違いを大変よく気がつかされました。また、先輩方の広く暖かいお心のおかげで貴重な体験ができました。ご指導ありがとうございました。
リーダー所見

作成
報告者)
長島
07.2.5

「山スノボ(?)」は、登りボードを背負い、スノーシュー(ワカン)とストックを使い登る。下りは逆にボードで滑走する。「山スノボ」の弱点は転んだ時に起き上がり難いことと、立って休憩しにくい点にある。下りもストックを使うと有効に思う。次回、試してみてもいい。